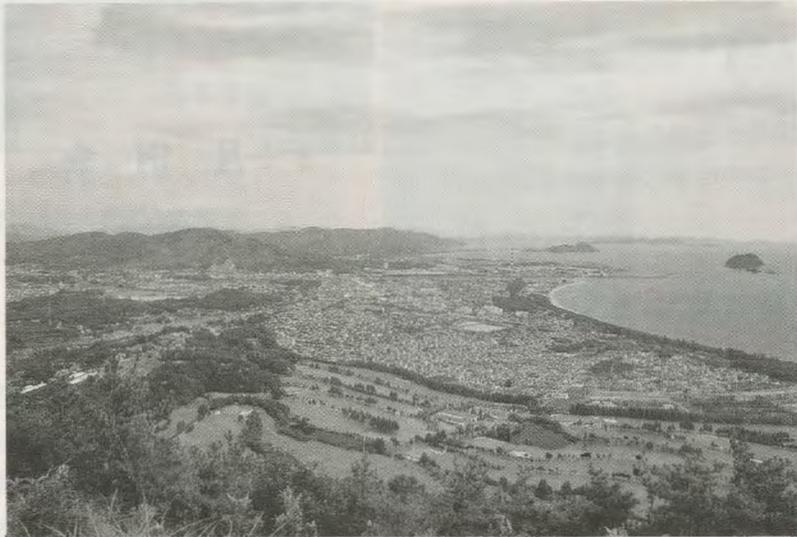


3月号

光市医師会報

No 185

I love 光



光、豊かな自然に抱かれて、羽根を休めている白鳥のようなおまえ、私達はおまえが羽ばたく日を楽しみにしている。

昭和63年3月発行
光市医師会

医師会月間行事

昭和63年3月度理事会

2月9日(火) PM7:30~
於 光市医師会館

昭和63年3月度月例会

2月23日(水) PM7:00~
於 光市医師会館

議題(報告・協議事項)

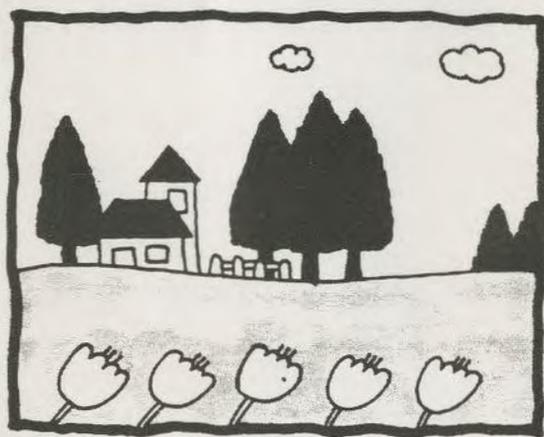
- 1: 前立線がん検診について(板垣理事)
(板垣理事)
- 2: 来期常任理事の選出の件
附: 来期理事の職務分担について
(竹中会長)
- 3: 光市医師会の旅費規定改正の件
附: 各種規定・規則の改正について
(竹中会長)
- 4: 市長との懇談会について
(福本副会長)
- 5: 税務講習会の件
(中村琢理事)
- 6: その他

1: 税務勉強会

昭和62年度税法改正及び確定申告時の
留意事項について

2: 月例会

- A: 医師国保組合会議の報告
(竹中会長)
- B: 前立腺がん検診の件
(板垣理事)
- C: 昭和63年医師出務報酬の件
(福本副会長)
- D: 昭和63年予防接種健診等の出務案
(福本副会長)
- E: その他



医学講演会を聴いて

富 恵 哲



軽快なおしゃべりで
観衆を魅了した
柚木 先生



1月30日午後、光市民ホールで、「若年層のスポーツ外傷、障害と予防」をテーマとして講演会が、光市医師会の主催で行われた。小ホールは、ほぼ満員。聞く所に依れば、笠戸島の小学校の校長さんや、大和町の養護の先生方が、わざわざ来られたらしい。最近のトピックであり、学校の先生方、父兄、スポーツコーチの一番関心のあるテーマであったであろう。

講師は川崎医大川崎病院整形外科の柚木脩先生で、日本体育協会より依頼を受けた岡山県の調査、研究結果を中心として、先生の遭遇された症例を基に巧みな話で講演を始められた。

「子供は、大人を小さくしたものではない」と先ず述べられた後、小学生の骨の特長、

特に骨端の成長線に就いて、レントゲンを見せ乍ら、説明をされた。成長期の子供の指導に就いて述べられた中で、参考になったのは、低学年では、脊柱の発達を考慮して、姿勢が正しくなる様なスポーツ、(空手)を、小学校の4~5年では、神経機能の発達を促す為、体操教室へ通い、中学生となり、骨格が形成されて後、専門科目を採択すると云うメニューを示して居られた事である。この様な指導法は、欧米では常識となっていると云はれ、日本のスポーツ医学の遅れを指摘されて居られた。

オスグッド氏病、リトルリーグ肘、リトルリーグ肩等を個々に就いて説明。私達が教わった頃は、成長期の一過程であるとされて居たが、現在では、オーバーユースに

よる、軟骨炎、骨折と考えた方が妥当ではいかと、云って居られた。予防法も併せて述べ、オーバーユースに対して、少年野球では、一つのポジションを数人が出来る様に交替選手を作る必要があり、投げるフォームが崩れると、障害があるのではないかと、気付く親であり、コーチであるべきだと述べられたのは、昔、大学時代、野球をやって居られた自分の体験を重ねて喋られたので迫力があつた。子供の踵骨痛、腰痛の発生機序を説明、(巨人の星)の星飛馬の父親のスパルタ教育の愚を戒しめて居られた。「子供の骨は単に大人の骨の縮小したものではない」と云う事を繰り返えし、

小学生のオーバートレーニングが禁物である事を強調、異常があれば、早く、医療機関で治療を受けさせる事、将来ある子供達に、我慢をさせたり、無理をさせる事は、絶対に避けるべきだと強調。

時間が足らず、中学生まで話が出来なかつた事を詫びて話が終つた。その後、質問の時間となり、フロアーから活発に手が挙り、応答が続けられた。

子供のスポーツをもう一度見直す良いチャンスであり、医者としても、スポーツ医学に目を向ける良いチャンスであつたと考へたのは「私一人だけであつたらうか。



にぎわいを見せた会場



いつもながらの名座長ぶりの
富恵先生

うちかたの先生

医療法人 愛命会 大田病院 藤村 朴 先生編



“医師会から藤村先生の紹介をしてくれちゆうて来ちよるんじゃが”と事務長。一同口を揃えて“そりゃ難しい問題じゃねえ”“よっぽどヨイショのうまい人が書かんじゃ”等とワイワイやっていると、背後から“悪口なら書けようが”とキツイー声、一瞬ドッキリ、“別に悪口なんて書かなくても…、ありのままでいいんですから”の応酬に、“それがまた困るのう”と本音とも冗談ともつかぬ言葉。その間にも書き手を求めて原稿用紙はあっちへ行ったり、こっちへ来たり。結局、一番ヨイショの下手な私の所へ落ちついた次第です。お覚悟の程を!!（とは言っても、絶対に書いてはいけないことを蔭でそっと聞いておいた心優しい女性なのであります。）

という訳で、うちかたの藤村先生の登場と相成りましたが、先ずもってその趣味の

多彩ぶりから紹介しなければなりません。S29年から続いているというプラモデル作り。戦闘機、戦艦とその手先の器用さにはただ感嘆するばかり、戦闘員のごく小さい一人一人がそれは見事に作られているのです。院内の作品展にも毎年出品をお願いし皆の目を楽しまけて下さいます。

次いでゴルフ、これは知る人ぞ知る、HD10の腕前で攫った優勝数知れず、未だ練習に余念がありません。これもS40年頃からで既に20数年のキャリア、このゴルフの合間に口をついて出るセリフが謡の文句、観世流の謡曲を唸る趣味もありました。

S45年頃からは森田流能楽の笛が加わりました。わざわざ京都まで出向いて、人間国宝の先生に直接ご指導を受けられた本格派、近辺で行なわれる能楽舞台では引張りだこ、これまた高尚な趣味です。

一番新しいものでは、約5年前から始められた日本鶏の愛玩、飼育があります。一寸お医者様らしからぬ(?)趣味に周りは驚いたものですが、春ともなるとチューリップの咲き乱れる広々とした自宅の庭を、天然記念物の桂チャボが悠然と散歩する様子を眺めつつ、一人悦に入っておられる先生なのです。他にも手品をやったり、座布団片手の余興をやったり、先生は忘年会のスターでもあります。何かをやっている、時にパツと手抜きをする悪い癖があるとご謙遜なさいますが、どうしてどうしていずれも長年に亘る継続に、三日坊主の私としま

しては唯々感服するのみです。

長々と趣味の話をしました。次いではこちらがちゃんと精神科の診療に役立っているというお話。つまり精神科では“話し合うこと”が診療の大部分をしめていますので、先ず患者さんとのコンタクトをいかにとるかが大事になりますが、この時にこれら多様な趣味の話や、雑学の大家らしい各方面的知识とが大いに役立つという訳です。又、診療中に発せられる名(迷?)セリフもつとに有名。中には職員の間でだい



に不評を買っているものもないではありませんが、いずれ“藤村語録”として集大成すると面白いと密かに話しております。先生は又、職員や患者さんにニックネームをつけて喜ぶという悪趣味があります。それがまた不思議とその人の雰囲気にもマッチしているから反撃もできず、口惜しい思いをしている者もいる筈です。

診療と趣味に多忙の中、県より委託され



た各種相談業務も、東へ西へ移動しては精力的にこなされています。

本年7月には精神衛生法が精神保健法として生まれ変わり、精神科もその対応に忙しくなる時期を迎えるにあたり、職員一同が先生には熱い熱い期待をかけております。時々調子の狂っていた腸の具合もすこぶる良好とのこと、益々御健康に留意されご活躍なさることをお祈りします。

因みに、私も随分ヨイショがうまかったと、隠れた才能発見の原稿書きとなりました。



うちかたの先生

守友医院 守友雅彦 先生編



我が守友医院の院長は、“守友雅彦”、当年とって五十二歳、バリバリの働き盛りです。ちょっぴり頑固なところもありますが、まじめで几帳面、しかもたいへん穏やかな性格です。

患者さん（特にお年寄りや子供たち）にも従業員にも非常にやさしく、私が勤務して十二年余りになりますが、一度も大きな声を出したり、どなったりされたのを聞いたことがありません。

この原稿の依頼がきたときも「特徴がないから書くことがなくて困るだろう」と、心配していただきました。

また、お酒もあまり飲めないし、かげごとまされないせいでしょうか。たいへんな勉強家です。日曜日や連休を利用して、勉強会・講習会などに出席の為、東京や大阪方面へ出かけられることもしばしばです。

また、薬問屋主宰の勉強会にも必ずといていくくらい出席されています。

先生の趣味は、なんといっても家庭菜園

でしょう。家庭菜園とはいっても、耕運機を購入して、本格的にやっておられます。ジャガイモ・サツマイモ・ダイコン・カブなどの根菜類を中心に、シュンギク・タカナ・ハクサイ・キャベツなどを“無農薬”で作っておられます。昼休みや日曜日に、気分転換・体力作りを兼ねて、草取りや水まきなどをこまめにされているので、出来の方はなかなかよいようです。



お年寄りの患者さんと診察室の中で、「・・・の種をまいたか!？」
「・・・の苗を植えたよ」
「僕のところは・・・がよく出来た。」
などと話をされているのをよく耳にします
先生のもう一つの趣味は音楽鑑賞です。その中でも特にタンゴがお好きなのでしょう。わざわざ大阪フェスティバルホールまで“タンゴ”を聞きに行かれたことが何度もあります。私も音楽は好きですが、先生のようにわざわざ遠くまで出かけるほど

熱心ではありません。

ここまで書き進みますと、先生はまじめ一方な方のように思えるでしょうが、案外気さくなところもあります。たとえば、従業員の結婚式でギターの弾き語りをされたこともあり、私の結婚式の時にも、夫婦で歌を歌っていただきました。

私はこのような先生のもとで働いていることをたいへんありがたく思っています。これからも、患者さんにやさしく接して行き、守友医院がいつまでも明るく温かい病院として、患者さんに親しまれるように、頑張っていきたいと思います。

うち方の先生

前田医院 前田昇一先生編



の説明もたいへん親切で、特に若いお母さんや、お年寄には丁寧にされるみたいです。しかしお話が少々長いという一面もあり、夕方遅くなりますと私達がいらいらすることもあります。

今年48才を迎えられるとはとても思えない若々しさですが、最近書類をご覧になる時は、ずい分離して見ていらっしゃるように思います。またナースの間で秘かにささやかれていることですが髪に白髪は少ないけれど、実は先生の鼻毛は真白というのです。

15年の大学勤務の後、前田耳鼻咽喉科二代目院長となられて3年半、うちかたの先生、前田昇一先生は物静かでたいへんおやさしい方です。先代俊男先生が一日一回は大きな雷を落とされていたのとは対照的で患者さんにも、私達ナースにも大きな声を出されることはありません。そのためか幼ない子供の患者さんが多く、まるで託児所か幼稚園の様です。患者さんへの病気や薬



(誰かのぞいて見たのでしょうか)。お若く見える先生も年相応に老化が進んでいるということでしょう。

先生のご趣味はゴルフ、鯉の飼育、園芸等ですが、隠れたもう一つの趣味は掃除です。たまの休日には、朝からモップを担いで待合室、診察室の掃除に励まれるようです。

休日明けに出勤した私達はピカピカになった天井、換気扇、窓わく等を目にしているのも恐縮してしまいます。道具類の修理もたいへんお上手で、先日家具屋さんからサービスでもらったビニールレザーの切端でソファ二脚を見事に張り換えられました。工夫という言葉を生信条の一つにしていらっしゃるようですが、以前全て廃物を利用して平衡機能検査用の簡単な機械を工夫して作られたこともあります。この機械は今も患者さんの診断に活躍しています。毎日大勢の患者さんの診療で神経を磨り減らしているようですが、先生のストレス解消法の一つに先代先生からの池の鯉との無言の対話があります。ガラス戸を開ける音で一斉に集まって来る程よく慣れている鯉ですが、先生がお顔を出されるとパクパク口を開けて餌を催促します。私達にはのっぺりと無表情に見える鯉の顔ですが、先生にはうれしそうにも、悲しそうにも様々にうつるようです。そろそろ暖かくなりますと鯉に色々な虫が付いてその駆除にお忙しくなられます。診療所の方も春先は一段と忙しくなって来ます。お父様の俊男先生は85才の今も毎朝水がぶり健康法を実践されていますが、常々その効用を説かれて昇一先生にも盛んに勧めていらっしゃるようですが、未だ始められたという話はききません。

先生どうか健康には十分留意され、ますます御活躍されることを従業員一同お祈りしております。

あ と が き

大変ながいあいだありがとうございました。

皆様に大変な協力をしていただき、お蔭様で最後の3月号を迎えることが出来ました。

一番心苦しいことは、予算オーバーしてしまったことです。

皆様の大切なお金を無駄遣いしてしまい本当に申し訳なく思っております。

私は書く事が大変苦手ですが、今回会報委員を2年間試してみても痛切に感じた事は、原稿を断られた時のつらさでした。ですからこれからは原稿依頼があったら、気持よく「あまりうまくないけれど、いいですよ」と、というような返事をしたいと思っております。

発行所

光市医師会

TEL 0833 72-2234

発行者

竹中昭二

編集者

会報編集委員会

印刷所

光市御崎町

中村印刷株式会社